

容器包装以外のプラスチックのリサイクルの在り方に関する懇談会での検討の趣旨について

2010年6月

1. 検討の背景及び趣旨

- 2009年9月に取りまとめられた『プラスチック製容器包装の再商品化手法及び入札制度の在り方に係る中間取りまとめ』では、
 - ① 今回の審議においては、プラスチック製容器包装の商品化の在り方に関し、中長期的な課題も含め、多岐にわたる課題を検討事項としたことから、そもそもの議論に立ち返り十分な審議を重ねていくことが必要となるが、直近の2010年度の入札手続から反映できるよう、まずは、これまでの議論を踏まえ2010年度の入札手続に盛り込むべき内容についてここで中間取りまとめとして整理を行うこととし、その後引き続き当初の議題について、2009年夏以降、全体的な議論を継続する
 - ② 中長期的課題の一つとして「市町村によって焼却等されている廃プラスチックのリサイクル推進・混合プラスチックのリサイクル、環境負荷の低減等の取組と公表、その推進のための仕組み等の検討」について別途の場で議論をし、概ね2010年夏頃までに結論を得られるようにすることとされている。
- また、本年1月の中環審プラスチック製容器包装に係る再商品化手法専門委員会・産構審プラスチック製容器包装に係る再商品化手法検討会（以下「合同会合」という。）第13回会合において、当面の議論の進め方として、材料リサイクルの優先的取扱いに関する合同作業チームでの検討と並行して容器包装以外のプラスチックも含めたプラスチックのリサイクルの在り方など制度に密接に関連する課題についても検討を行うとともに、これらの検討結果を踏まえて今後のプラスチックのリサイクルの基本的方向並びに材料リサイクルの優先的取扱いの考え方及び対応策の方向を可能な限り2010年夏までを目途に整理することとされている。
- 以上を踏まえ、今般本懇談会を立ち上げ、容器包装以外のプラスチックも含めたプラスチックのリサイクルの在り方について検討に着手することとした。

2. 今後整理していくことが必要な事項

本年2月19日に開催された第1回合同会合作業チームにおいて「昨年9月の中間取りまとめで別途議論することとしている中長期的課題のうち『本年夏までに方向性を整理することが必要な事項』』として議論された標記事項の概要は、以下のとおり。

(1) プラスチックの分別・有効利用の現状と課題（一般廃棄物）

- ① 現行制度の整理
- ② 一般廃棄物プラスチックの排出・処理状況
- ③ 廃プラスチックのリサイクル、高効率熱回収の適合性
- ④ 温室効果ガス排出削減効果
- ⑤ コスト構造
- ⑥ その他

(2) プラスチック・リサイクルシステムの方向性（一般廃棄物）

(3) 市町村における焼却回避、環境負荷低減等の取組及び公表等

(4) 産業廃棄物（廃プラスチック、廃油）のリサイクルシステムの方向

（なお、上記のうち（3）（4）は、場合によっては夏以降の議論とされた。）

3. 議論の進め方

- 合同会合において、本年夏までを目途に、プラスチック全体の排出・処理状況を踏まえ、今後の一般廃棄物中のプラスチックのリサイクルの基本的方向等について整理することとされている。本懇談会における検討の結果は、合同会合に報告され、この合同会合における取りまとめの基礎として用いられることとなる。
- ついては、合同会合への報告を念頭に、関係各主体の合意を得られる可能性にも留意しつつ、まずは、一定の条件の下で容器包装以外のプラスチックをプラスチック製容器包装と併せて収集した場合の、ベール品質の変化とその変化が再商品化手法に与える影響について、本懇談会において夏までに整理することとする。

○ 以上の点について本懇談会で整理するため、実現可能性にも留意しつつ、今後、以下のような論点を整理していく必要がある。

- ① 一般廃棄物及び産業廃棄物の両方を含む現在の廃プラスチック全体の排出・処理状況はどうなっており、その中で、合同会合の本年夏までの取りまとめに特に関連が深く、論点を整理することが必要な廃プラスチックはどのようなものがあり、それらの廃プラスチックの素材や容器包装との比率はどうなっているのか。
- ② 上記実態を踏まえ、容器包装以外のプラスチックとプラスチック製容器包装とを併せて収集しリサイクルした場合にベール品質はどのように変わり、その変化は材料リサイクル手法やケミカルリサイクル手法に係る環境負荷の削減や資源の有効利用等の面でどのような影響をもたらすのか。
- ③ 上記のようなリサイクルを行う場合の、制度面や費用面等の課題はどのようなものか。
- ④ 上記の仕組を導入するに当たって本年夏以降さらに検討すべき事項の整理。また、産業廃棄物中のプラスチックのリサイクル等プラスチック全体のリサイクルの在り方の整理に向け、本年夏以降検討すべき事項の整理。